

令和元年11月15日

保護者様

いわき市立大野第二小学校長 千葉 英一

平成31年度全国学力・学習状況調査の調査結果と今後の取り組みについて

秋冷の候、保護者の皆様には日ごろより本校教育活動に深いご理解と多大なるご協力をいただいておりますことに厚く感謝申し上げます。

さて、本年度実施しました現6年生の全国学力・学習状況調査につきまして、「学校と家庭・地域が一体となって、子ども一人一人の学力を高める」という目的をふまえ、保護者の皆様に、調査結果と今後の取り組みについてお知らせいたします。調査結果からわかることは、あくまで学力のごく一部分ではありますが、本校の子どもたちの学力の状況をとらえ今後の指導に生かすための重要な資料でもあります。

そこで、本校におきましては、調査結果とともにその分析結果や、それらをふまえた改善策を示すことにより、家庭・地域と一体化した取り組みを進めていきたいと考えておりますので、ご理解・ご協力をお願いします。

### 1 学力調査の結果から

※ 平均値よりも5ポイント以上上回る場合は「上回る」、2～5ポイント程度上回る場合は「やや上回る」、平均値と-2～2程度の差の場合は「ほぼ同じ」、平均値から-2以下の場合は「下回る」と表記しています。「大きく」が入る場合には10ポイント以上の差があります。太字表記の領域は優れているところ、下線部分は努力が必要なところです。

#### <国語科>

##### 全体

**全国平均を大きく上回る**

領域 **話すこと・聞くこと（大きく上回る）**

**書くこと（大きく上回る）**

読むこと（上回る）

**伝統的な言語文化（大きく上回る）**

##### 評価の観点

領域 **関心・意欲・態度（大きく上回る）**

**話す・聞く能力（大きく上回る）**

**書く能力（大きく上回る）**

読む能力（上回る）

**言語知識・理解・技能（大きく上回る）**

##### よかったところ

- ◎ 図表やグラフなどを用いた目的をとらえる。
- ◎ 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。
- ◎ 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく。
- ◎ 目的に応じて文や文章全体を概観して効果的に読む。
- ◎ 話し手の意図を考えながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問をする。
- ◎ 目的に応じて質問を工夫する。
- ◎ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えをまとめる。
- ◎ ことわざの意味を理解して自分の表現に用いる。

##### 改善が必要なところ

- ・ 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。
- ・ 学習した漢字を文の中で正しく使う。

##### 総合的な分析と今後の国語科の指導にあたって

- 学習によって身につけるべき力は十分に定着していることがうかがえます。
- 今後さらに国語科の力を伸ばしていくためには、自分の考えに根拠をつけて書いたり、話したりする力を高めていくことが大切です。
  - ・ 授業では……
    - ① 発表するときに、友だちの意見と比較して考え、自分の考えを整理するとともに、その良さが伝わるように考えさせる場面を設定します。
    - ② 文章を書くときには、自分だけでなく友だちにも見ってもらって何度も見直し、互いに納得

できる文章になっているかどうかを確かめさせる場面を設定します。

・ 家庭学習では……

- ① 新聞を読んだりニュースを聞いたりして感じたことをまとめたり、読書をして自分の感動したところをメモしたりする習慣を身につけるように指導していきます。
- ② すでに学習した漢字を適切に用いて文章を書いたり、自分の考えをまとめたりするように指導します。

<算数科>

□ 全体

**全国平均を大きく上回る**

領域 数と計算（上回る）

**量と測定（大きく上回る）**

図形（上回る）

**数量関係（大きく上回る）**

□ 評価の観点

領域 関心・意欲・態度（\*\*\*）

**数学的な考え方（大きく上回る）**

数量や図形についての技能（ほぼ同じ）

**数量や図形についての知識・理解（大きく上回る）**

□ よかったところ

- ◎ 台形について理解している。
- ◎ 棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができる。
- ◎ 資料が示す内容を的確にとらえることができる。
- ◎ 示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる。
- ◎ 示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる。
- ◎ 目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる。
- ◎ 場面の状況から単位量あたりの大きさを基に求め方と答えを記述し、その結果から判断できる。

□ 改善が必要なところ

- ・ 加法と乗法の混合した整数と少数の計算をすることができる。
- ・ 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。

□ 総合的な分析と今後の算数科の指導にあたって

- 学習によって身につけるべき力は十分に定着していることがうかがえます。
- 目的に応じた、数量や図形についての考えを導き出すための技能(文章題の内容から計算式を組み立てたり、図形の特徴をとらえて立式したりする力)に関しては、今後ますます応用力を高める学習が必要です。
  - ・ 授業では……
    - ① 整数と小数、整数と分数の混在した計算を的確に素早く行うドリルを取り入れていきます。
    - ② 日常生活と算数の知識を融合させて、必要に応じて立式したり、図形を書いたりする力を高める発展学習を取り入れていきます。
  - ・ 家庭学習では
    - ① 整数、小数、分数の四則計算を繰り返し練習するとともに、図形の作図なども積極的に取り組むように指導します。
    - ② 日常生活に潜む課題を数学的に解決するために、式を立てたり、図や表・グラフ・数直線などを使って解決していこうとする意欲を高めるように指導します。

2 児童質問紙の結果から

(1) 望ましい傾向…100%あてはまると回答された項目

- 朝食を毎日食べている。
- 先生は分かるまで教えてくれる。
- 将来の夢や目標を持っている。
- 物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある。
- 学校に行くのは楽しい。
- 人が困っているときは進んで助ける。
- いじめはどんな理由があってもいけないことだ。
- 人の役に立つ人間になりたい。
- 家で自分で計画を立てて勉強をしている。
- 読書が好きだ。

- 地域の行事に参加している。
  - 日本や自分の住んでいる地域について外国の人にもっと知ってもらいたい。
  - 道徳の授業では自分の考えを深めたり、グループで話し合ったりしている。
  - 国語の勉強は大切だ。
  - 国語で学んだことは将来役に立つ。
  - 国語の文章で書く問題をすべて解答した。
  - 算数の勉強は好きだ。
  - 算数の勉強は大切だ。
  - 算数で学んだことは将来役に立つ。
  - 算数の問題で解き方が分からないときはあきらめずにいろいろな方法を探す。
  - 算数の授業で解き方や考え方をノートに書いている。
  - 算数の文章題にも一生懸命取り組む。
- (2) 課題となること…25～50%あてはまらないと回答された項目
- 自分にはよいところがある。
  - 先生は自分のよいところを認めてくれる。
  - 学級で話し合って決めたことに取り組み、うれしかったことがある。
  - 昼休みに図書室を利用する。
  - 新聞を読んでいる。
  - コンピュータなどを利用した授業を受けている。
  - 授業でもっとコンピュータなどを活用したい。
  - 学級での話し合いで自分の考えが深まったり広がったりする。
  - 学級で互いの意見のよさを考えて解決方法を決めている。
  - 自分の考えが伝わるように工夫して発表している。
  - 国語の勉強が好きだ。
  - 国語の授業で目的に応じて自分の考えを話したり書いたりしている。
  - 国語の授業で自分の考えが上手く伝わるように理由を示したりするなど工夫して書いたり話したりしている。
  - 文章や段落の関係などを考えながら読んでいる。
  - 算数の授業で学んだことを普段の生活の中で活用できないか考えている。
  - 算数の問題の解き方でもっと簡単にできないか考えている。
- (3) 総合的な分析と今後の指導について
- 学校経営方針に基づいた指導が、確実に定着していることが分かります。今後とも、子どもたちの命と健康を基本とした学びを最も大切に考えた指導を展開していく所存です。
  - 日々の授業で行っていることについては効果があらわれています。子どもたちの回答した質問紙でも同様の傾向が見られます。保護者や地域の願いを十分に把握して教育活動を行う、開かれた教育課程のますますの推進を図りたいと思っています。
  - 子どもたちが十分に組みんでいないと感じている内容について、学力調査でもまったく同じ傾向としてあらわれています。その中には、「理由をつけて考えを書くこと」や「よさを認め、伸ばすこと」など、改善することがすぐにできることもあります。しかし、「話し合いを通じた考えの深まり」や「学級で決めたことを実行するに際しての考えの広がり」など、どうしても小規模校では難しい事柄もあります。これらについては、他校との交流活動、行事での大勢の人たちとのふれあいだけでなく、

学校に来てもらう教育活動から、積極的に外に出て情報を発信する教育活動への進化

が大切であると考えます。

これからも、一人一人の子どもたちを大切に、一日一度でも授業中に笑顔や「わかった、できた」という表情が見られるように、さらに「地域やいわき市の人たちによるこんでもらえた、役に立つことができた」と子どもたちが感じるような教育活動に全職員で全力で取り組みます。

保護者、地域の皆様方、これからもよろしくお願いたします。